

熊本大学国際化推進センターニュース

The News Letter of the Center for Globalization, Kumamoto University

「第10回熊本大学フォーラム」をインドネシア・スラバヤにて開催

11月25日及び26日、インドネシア・スラバヤにおいて、「第10回熊本大学フォーラム」を開催しました。同フォーラムは熊本大学の国際的なプレゼンスの向上、国際交流ネットワークの拡充、さらに人材交流の促進を図るため、2003年から国内外において開催しているものです。

インドネシア出身の留学生は中国に次いで2番目に多く、現在45人が在学しています(2013年5月現在)。本学とインドネシアとの繋がりは深く、スラバヤでフォーラムを開くのは2008年に続き2回目となります。今回は、本学の海外オフィスを拠点として長年活発な教育研究交流・学生交流を行ってきたスラバヤ工科大学(ITS)との交流拡充及びインドネシア有数の総合大学として評価が高いアイルランガ大学(UNAIR)との交流開始に焦点を当て、両大学の協力の下で開催しました。

本フォーラムでは、ITS、UNAIR及び本学の参加3大学の学長による基調講演や高島大学院自然科学研究科長、竹屋大学院生命科学研究部部長らによる大学紹介、本学教授陣による特別講義や3大学の研究者や学生による研究発表などが行われ、2日間で延べ約1,000人が参加しました。また、UNAIRと大学間交流協定を、既に交流協定を結んでいるITSと新たに修士課程ダブルディグリープログラムの協定をそれぞれ締結、さらにスラバヤ工科大学連合との交流協定の更新を行いました。



本学への留学について熱心に質問するインドネシアの学生たち

「HIGOプログラム」を紹介するブースの出展、3大学の学部学科等を紹介するポスター展示等の多彩なイベントを行いました。また、地元メディアによる記者会見も開かれ、本フォーラムに対するスラバヤの人々の関心の高さが随所にうかがえました。

フォーラム後での懇親会では、谷口学長からインドネシアの大学の学長らに本学のコミュニケーションワード「創造する森 挑戦する炎」をアレンジした特製ハッピーが記念品として贈呈されました。アイルランガ大学日本語学科の学生達による「よさこい」のパフォーマンス、そして本学の教授4人による男声コーラスグループの飛び入り参加で大いに盛り上がり、和やかな雰囲気の中、今後の連携強化と笑顔での再会を約束し終了しました。

今回のフォーラム開催を通して、本学とインドネシアの大学との交流がより深まったことで、今後の留学生増や国際共同研究の一層の発展が期待されます。



日本及びインドネシアの3大学の研究者が最新の研究を紹介

フォーラムと併行して、3大学の学長による在スラバヤ日本国総領事館・野村昇総領事への表敬訪問、インドネシアに在住する本学OB・OGの交流会、熊本県・熊本市・大学コンソーシアム熊本及び熊本大学博士課程教育リーディングプログラム



懇親会でのインドネシアの学生と本学教授陣のパフォーマンス

谷口学長、韓国・KAIST主催の「国際学長フォーラム2013」に出席

本学と大学間交流協定を締結している KAIST (韓国科学技術院) 主催の「国際学長フォーラム2013」が、“The Role and Responsibility of Research Universities: Knowledge Creation, Technology Transfer, and Entrepreneurship.”をテーマに、10月15日、韓国・ソウルにおいて開催されました。

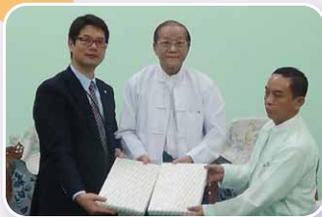
本フォーラムには、28カ国から57機関の学長・副学長らが出席し、講演及び意見交換が行われました。本学からは、谷口学長が出席しました。

また、谷口学長は、10月14日、大邱市・慶北科学技術院 (DGIST) を表敬訪問し、キム・ハシク総長と会談を行い、本学の教育研究活動について講演を行いました。



KAISTのSung-Mo "Steve" Kang学長(左)及び学長夫人(右)と記念撮影する谷口学長

ヤンゴン工科大学との教育研究協力関係の開拓



陳教授とNyi Hla Nge元学長(中)、Aye Myint学長

本学生命科学研究部が平成24年度博士課程教育リーディングプログラム [複合領域型(生命健康)] に採択された HIGOプログラム※による優秀な外国人留学生を戦略的に獲得すると同時にヤンゴン工科大学との新たな教育研究協力関係を開拓するため、国際化推進センターの陳強教授が12月6日にヤンゴン工科大学を訪問しました。

ヤンゴン工科大学は元ヤンゴン大学の工学部門が分離独立した形で1924年に設立されました。設立当時は土木工学という一つの学科のみでした。現在、ミャンマー科学技術省傘下にある高等教育機関の中で最も歴史が長く、同省傘下の他高等教育研究機関の学術的事項に対して助言する立場にあります。

会談では、元学長で元科学技術省長官の Nyi Hla Nge教授及び現学長の Aye Myint教授が HIGOプログラムに対して高い関心を寄せ、優秀な学生の推薦について協力すると約束しました。また、土木工学や化学、情報工学など様々な研究分野での国際交流についても意見交換を行い、友好関係の樹立について強い意欲が示されました。

※HIGOとは Health life science: Interdisciplinary and Global Oriented の略で、「グローバル(グローバル+ローカル)な健康生命科学バイオニアとしてのリーダー」を養成する大学院教育プログラムを指す。

大学院自然科学研究科にアフガニスタンからのJICA研修員を受け入れ

独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受け、2013年10月から2年間、アフガニスタン国研修員3人を科学技術分野における国際共同教育プログラム(IJEP)の学生として大学院自然科学研究科博士前期課程に受け入れることになりました。

これはアフガニスタンの復興と開発推進の原動力となる人材育成を目的とした



左からアクィリ・サイド・フリーユラ氏、クドラット氏、ジャラル・エリヤスディン氏

「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト(PEACE)」の一環で、2011年から5年間で最大500人のアフガニスタン人が日本の大学院で修学することが予定されています。

現在、彼らは、水処理や都市交通計画など母国のインフラ開発を推進する上で必要な知識や技術の修得を行っています。

チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学訪問

12月10～11日に、松瀬成子講師、今西利之講師(いずれも国際化推進センター)の2人がチャナッカレ・オンセキズ・マルト大学教育学部日本語教育学科(トルコ共和国)を訪問しました。今回の訪問では、本学の日本語日本文化研修プログラムの概要説明、日本語の授業見学、関係者との情報・意見交換などを行いました。当学科では、本学の元留学生



本学元留学生の教員による授業風景

(社会文化科学研究科博士後期課程修了)が教員として教鞭をとっています。また、昨年はじめて日本語日本文化研修留学生在が本学に留学しました。本学との交流協定は現在締結されていませんが、今後の関係構築が期待されます。

コンケン大学(タイ)とラオス国立大学の訪問について

11月3日～9日に、福澤清教授(文学部)、今西利之講師(国際化推進センター)、マスデン眞理子講師(国際化推進センター)の3人が、コンケン大学人文学部・教育学部およびラオス国立大学人文学部を訪れました。



コンケン大学人文学部長の

Dr. Kulthida Tuamsuk(右から3番目)らと今回の訪問では、本年度から文学部で始まった日本語教育課程における今後の海外教育実習の可能性をテーマに、関係者との意見交換や現地視察を行いました。また、本学の日本語日本文化研修プログラムおよび短期留学プログラムの紹介や、両大学から本学に留学し、上記プログラムに在籍している学生の状況報告などを行いました。

平成25年度

「教育の国際化推進のためのFD研修」を実施



研修の様子

9月3日から5日までの3日間、本学において、英語による教授力・コミュニケーション力の向上を目的とした「教育の国際化推進のためのFD研修」を実施しました。

平成22、23年度は、カナダ・アルバータ大

学(本学の交流協定校)やアメリカ・カリフォルニア州立大学フラトン校へ本学教員を派遣して2週間の研修を実施しましたが、平成24年度からは、カナダ・アルバータ大学より講師を招聘して本研修を行っており、今回は教員25人が参加しました。

参加者は英語による教授法の講義や英語スキル向上のための演習等を通じ、様々な内容を学びました。

参加者からは「日頃の授業方法、姿勢を見直すとてもよい動機づけとなったし、日本人学生向けの授業にも活かせる内容が多かった。また、普段接することのない他学部の教員と意見交換でき、良い経験となった。」等の感想が寄せられました。

平成25年度海外留学成果発表会を開催

11月12日、本学くすのき会館にて平成25年度海外留学成果発表会を開催しました。

本発表会は2部構成で、第1部は学生交流協定校へ交換留学生として派遣された学生が、渡航先の言語で発表を行い、第2部は夏期又は春期に2週間から1ヶ月の海外語学セミナーに参加した学生による体験報告が行われました。

発表に先立ち、谷口学長から、「今回の留学経験を活かして、今後、グローバルな人材として世界で活躍することを期待します。」と激励の言葉がありました。

発表者からは写真やエピソードを交えつつ、留学中の体験、留学を通して得られた成果等について報告が行われました。会場には今後、留学を希望する学生など約40名の参加があり、発表者への質問も相次ぎ、盛況のうちに幕を閉じました。参加者からは、「留学経験者の発表が大いに参考になった。」「刺激になった。」等の声が聞かれました。



発表を行う留学経験者

「熊本留学生交流推進会議」主催の留学生シンポジウムへ本学留学生が参加

12月7日、熊本市国際交流会館で熊本地区留学生シンポジウムが開催され、地域住民および熊本県内の高等教育機関に通う留学生ら約130人が参加しました。

第一部は「留学生に聞いてみよう! ~ビフォーアフター くまもとに来るまえ 来たあと そしてこれからの自分~」

と題して、本学留学生1人を含む6人の留学生(台湾、韓国、ベトナム、カナダ、中国、ポーランド)が日本に来る前に抱いていた日本や熊本のイメージ、来てからの印象、そして熊本での留学生生活を終えた後にどのような未来を描いていきたいかについて日本語で発表しました。留学生の流ちょうな日本語と、思いもよらない留学生ならではの視点に会場からは大きな拍手が送られました。

第二部では、晴れ渡る青空のもと、留学生や地域住民の方々が協力して餅つきを行いました。参加者はつきたてのお餅を堪能し、楽しいひとときを過ごしました。



初めて餅つきを体験する本学留学生(右)と谷口学長

外国人留学生のための就職合同説明会

留学生の県内企業をはじめとした就職を支援するため「外国人留学生のための就職合同説明会」が熊本県、大学コンソーシアム熊本などの主催により、12月14日、県民交流館パレアにおいて開催されました。

今年で3回目となり、県内企業ほか16社、110人以上の留学生が参加しました。本学からもおよそ40人が参加しました。質疑応答も交えながら企業ブースでの説明に熱心に聞き入っていました。また、県内企業に就職した留学生の先輩とのパネルディスカッション、就職活動に当たっての面接のポイントについての講演もありました。



就職合同説明会の様子



熱心に企業情報を収集する留学生たち

「くまもとを知ろう! ボランティアガイド養成講座」を開講



本講座修了生と鳥居副センター長

本講座は、熊本県内大学に在籍する留学生を対象とし、母国からの観光客が熊本を訪問した際などに熊本を案内するための知識を習得する目的で熊本留学生交流推進会議の主催(後援:大学コンソーシアム熊本)により開催されたものです。

11月30日に熊本市国際交流会館において熊本・阿蘇の歴史や文化についての講義を受講し、12月8日には阿蘇周辺での実地研修を行いました。本講座には本学の9人を含む16人の留学生が受講し、修了生には本学鳥居国際化推進センター副センター長から修了証書が手渡されました。

受講生からは、「講義及び実地研修をとおして、熊本の歴史や文化、美術を実際に見て、触れることでより深く理解することができた。」等の声が聞かれました。

日韓共同理工学部留学生事業推進フェアに参加

日韓共同理工学部留学生事業は、韓国の高校を卒業した学生を日本の国立大学の理工学部へ招致し、最先端技術・知識の習得及び日韓の相互理解促進を目的とする事業です。

9月1日、韓国ソウルの国際教育院で開催された日韓共同理工学部留学生事業推進フェアに、本学教員2人が参加しました。また、本事業により熊本大学を卒業し、現在は韓国に在住の韓国人OB2人も駆けつけ、通訳として活躍しました。

本学ブースを10~15組の志願者が訪れ、本学教員及び韓国人OBによる、熊本大学での勉強や生活についての詳しい説明を熱心に聞いていました。

本学は、平成12年度から本事業に参加しており、現在4人の韓国人学生が在籍しています。



留学生との交流会(第3回)を開催しました

11月5日に保健学系国際化推進委員会の主催で、「本学留学生と保健学系学生との交流会」(第3回)を九品寺キャンパスで行いました。本交流会は外国人とのコミュニケーションを通し、異文化の理解と英会話力向上のきっかけをつくることを目的に毎年開催され、留学生9人を含め学生・教職員合わせて58人が参加しました。



日本留学フェア(インドネシア・上海)に参加

10月26日にインドネシア・スラバヤ、11月9・10日に中国・上海で開催された日本学生支援機構(JASSO)主催の平成25年度日本留学フェアに、留学生の受入増加を目的として、国際化推進センター兼務教員、国際戦略ユニット職員らが参加しました。

スラバヤでは、本学ブースに115人の来場があり、本学スタッフ及び熊本大学インドネシアITSオフィス職員が英語やインドネシア語で説明を行い、学生からの質問に応じました。

上海では、本学ブースに70人を超える来場があり、学部や大学院、熊本の生活などについて質問がありました。また、以前、



インドネシア・スラバヤ会場(10月26日)



中国・上海会場(11月9-10日)

熊本大学に留学していた現地大学の学生や、現在、現地大学に留学中の熊本大学学生が熊本大学での生活などについて学生目線で説明を行いました。

本学は、スラバヤ、上海の両地域にオフィスを開設し、現地職員を配置しています。それぞれ熊本大学への留学について母国語で相談できることもあり、インドネシア、中国との交流は今後ますます活発になっていくと思われます。

平成25年度熊本大学留学生交流パーティを開催

12月3日、本学工学部百周年記念館において、留学生交流パーティを開催しました。熊本大学では、異なる生活環境の中で勉学・研究に励んでいる留学生を



谷口学長とパフォーマンスを披露した学生たち

励ますとともに、指導教員、チューター及び日頃からお世話になっている学外関係者を招待し、相互の交流と親睦を深める目的で、本交流パーティを毎年実施しています。

当日は、谷口学長による開会の挨拶、インドネシア留学生による挨拶に引き続き、国際化推進センター国際交流支援部門長・陳教授による乾杯の発声が行われ、参加した本学留学生、指導教員、チューター及び学外関係者が交流を楽しみました。

また、留学生パフォーマンスとして6組の留学生グループによる伝統的な音楽の演奏や歌、ダンス等が披露されました。パフォーマンス終了後は学長及び学外関係者による審査が行われ、最も点数の高かったパフォーマーに谷口学長から留学生パフォーマンス大賞が贈られました。その他、熊本大学国際交流支援会(ボギース)による抽選会も行われ、会場は約320人の参加者で大いに賑わいました。

大学間・部局間交流協定(平成25年7月~12月)締結分

大学間/部局間	大学名	国・地域	学術/学生	
大学間	アイルランガ大学 Airlangga University	インドネシア	学術	
	吉林化工学院 Jilin Institute of Chemical Technology	中国	学術/学生	
	マヒドン大学 Mahidol University	タイ	学術/学生	
部局間	大学院自然科学研究科	延世大学校工科大学 Yonsei University, College of Engineering	大韓民国	学術
	大学院自然科学研究科	中山大学地理科学計画学院 Sun Yat-sen University, School of Geography and Planning	中国	学術/学生
	政策創造教育研究センター	上海交通大学 Shanghai Jiao Tong University	中国	学術/学生
	文学部 社会文化科学研究科	淡江大学外国語文学院 College of Foreign Languages and Literatures, Tamkang University	台湾	学術/学生
	理学部 大学院自然科学研究科	モンゴル国立大学 数学・コンピュータ学部 National University of Mongolia, School of Mathematics and Computer Sciences	モンゴル	学術/学生
	理学部 大学院自然科学研究科	モンゴル国立農業大学 経済経営学部 Mongolian State University of Agriculture(MSUA), School of Economics and Business	モンゴル	学術/学生
	大学院自然科学研究科	ライプニッツ応用地球科学研究所 Leibniz Institute for Applied Geophysics	ドイツ	学術
	先進マグネシウム 国際研究センター	クイーンズランド大学材料工学科 Division of Materials Engineering, The University of Queensland	オーストラリア	学術
	薬学部 大学院生命科学研究部 大学院薬学教育部	ジョージア州立大学炎症・免疫・感染研究センター Georgia State University Center for Inflammation, Immunity & Infection	アメリカ合衆国	学術

大学間交流協定校: 71件 部局間交流協定校: 85件 計156件 29カ国1地域(平成26年1月1日現在)